



創造力を育てるカギは小学校 4 年生から中学校 3 年生にあり

アドビ、高校生 1200 人を対象にした、創造性についての意識調査を発表

【2020 年 11 月 25 日】

アドビ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：ジェームズ マクリディ、以下アドビ）は、日本の高校生の創造力（クリエイティビティ）に関する意識調査の結果を発表しました。この意識調査は日本の学校に通う高校生 1,200 人を対象に、創造力への認識、創造力に影響をあたえる要因、活動実態などを調べるため実施したものです。

今回の調査で明らかになった主な結果は以下の通りです。

- 高校生が定義する「創造力」とは、「自分らしい個性を自由に表現する力」が 63%で最も多いと同時に、一部の特別な人に備わった力ではなく「すべての人に備わった力」と考える割合が大きかった
- 創造的だと思う有名人は「ピカソ」が1位、僅差で「野生爆弾くっきー！」が2位
- 創造力に自信を持つのも失うのも小学校 4 年生から中学生の間が多い
- 図画工作や美術の授業が、創造力に対する自信を失うきっかけになっている
- 多くの高校生（78.2%）がコロナ後の社会ではより創造力が必要になると思うと答えている

全資料は[こちら](#)からご覧いただけます。

1. 高校生が定義する「創造力」とは

「自分らしい個性を自由に表現する力」が63%で最も多く、「芸術性の高いものを生み出す力」(46%)、「何もないところから新しいものを生み出す力」(46%)、「育った環境や努力によって培われるもの」(45%)と続きます。今回の調査から、高校生たちは創造力を、先天的なもの(生まれ持ったもの)というより、後天的なもの(育った環境や努力によって培われるもの)と捉える傾向が強く、一部の特別な人に備わった力ではなく「全ての人に備わった力」と考える割合の大きいことが分かりました。

2. 高校生が選ぶ、創造的だと思う有名人ランキング

自由回答で創造的だと思う有名人を聞いたところ、「ピカソ」が50ptを集め1位、その後「野性爆弾くっきー！」(48pt)、「米津玄師」(45pt)、「大野智」(38pt)、「HIKAKIN」(34pt)と続きました。

選定理由を見ると、多くの選出者が「独自性」を理由に選ばれており、独自性／オリジナリティが創造的なイメージに大きな影響を与えていることが分かりました。また、「多才」や「革新的」であることも創造的なイメージとつながっています。

創造的だと思う有名人

1位	ピカソ	50pt	6位	渡辺直美	29pt
2位	野性爆弾くっきー！	48pt	7位	スティーブ・ジョブズ	25pt
3位	米津玄師	45pt	8位	草間彌生	18pt
4位	大野智	38pt	9位	ヒロミ	14pt
5位	HIKAKIN	34pt	10位	ゴッホ/所ジョージ	13pt

※敬称略

3. 創造力の有無に関する、高校生たちの自己認識

自分は創造力が「ある」と答えた高校生は55%で、「ない」を上回りました。

4. 創造力に自信を失った時期

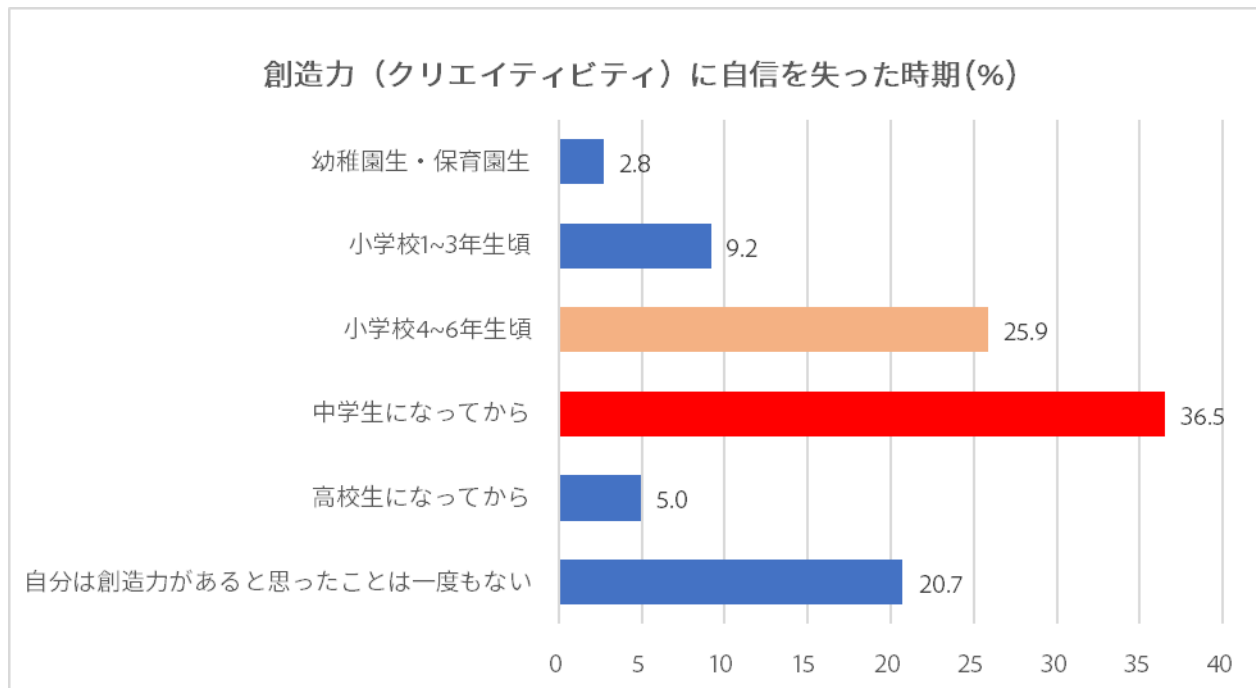
「自分は創造力がないと思う」人の63%が小学校高学年から中学生の間で自信を失っていることが分かりました。また、「創造力があると思う」人もその多くが小学校高学年から中学生の間で自信を得たと回答しています。

創造力に自信をなくした時期は、「中学生になってから」が37%で最も多く、続く「小学校4～6年生頃」（26%）を含めると、自分は創造力がないと思う人の63%が小学校高学年から中学生の間に自信を失っていることが浮き彫りになりました。また、最初は自信を持っていたのに途中で自信をなくしてしまった人の中では、小学校高学年から中学生の間で自信を失った人が約80%を占めることがわかりました。

一方、創造力に自信を持った時期への回答でも同様に、小学校4年生から中学3年生までの6年間で多数を占めました。内訳は、「中学生になってから」が29%で最も多く、続く「小学校4～6年

生頃」(28%)を含めると、自分は創造力があると思う人の57%が小学校高学年から中学生の間で自信を得ています。

創造力を育てる鍵は小学校4年生から中学校3年生にあり、ということが調査から明らかになりました。



5. 創造力を養うはずの美術の授業が、自信を失うきっかけに

創造力への自信をなくしたきっかけが、図工や美術など創作系の授業での体験にあることが浮き彫りになりました。創造力を伸ばすうえで、創作系の科目である、図工や美術の授業のあり方が問われる結果となりました。

創造力（クリエイティビティ）に自信を失ったきっかけ

■「小学校 4～6 年生頃」で回答の多かったきっかけ

- ・ 小学校の図画工作の時間で、絵を描いたり物を作るのが苦手だったり、周りの人と比べて下手だった。
- ・ 自分でテーマを決めて自由に作る課題で、アイデアが全然思いつかなかった。

■「中学生になってから」で回答の多かったきっかけ

- ・ 美術の授業の成績が悪かった。周りの人と比べて下手だった。
- ・ 美術の授業で、アイデアが思い浮かばず、ありきたりなものになってしまう。

6. 創造力に自信を持つきっかけは、個性がほめられる体験

創造力に自信をもつきっかけとして、人と違う個性的なアイデアがほめられたり、図工や美術の授業でほめられた体験が大きいことも明らかになりました。

創造力（クリエイティビティ）に自信を持ったきっかけ

■「小学校 4～6 年生頃」で回答の多かったきっかけ

- ・ 美術や図工が得意で、褒められたり賞を獲ったりした。
- ・ （美術や図工に限らず）意見や考え方が他の人と違った。アイデアを考えるのが得意だった。色々と他より優秀だった。

■「中学生になってから」で回答の多かったきっかけ

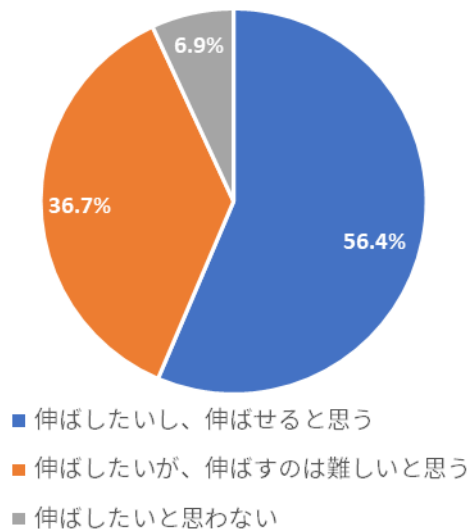
- ・ 美術が得意で、成績もよく、褒められたり賞を獲ったりした。
- ・ （美術に限らず）意見や考え方が他の人と違った。アイデアを考えるのが得意だった

7. 自分の創造力の今後に対する期待

自分の創造力を「伸ばしたいし、伸ばせると思う」人が 56%なのに対し、「伸ばしたいが、伸ばすのは難しいと思う」「伸ばしたいと思わない」人も 44%いました。

伸ばすのは難しいと思う理由は、「才能がないから」「もう手遅れだから」といった諦めのほか、「どうすれば伸びるか分からないから」「伸ばす環境が必要だから」のように自分一人ではどうにかできないものではないという考えを持っていることが分かります。

自分の創造力（クリエイティビティ）の今後に対する期待（%）

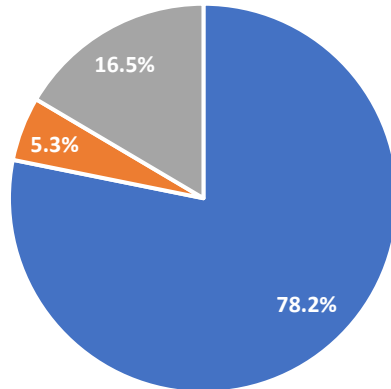


8. コロナ後の社会における創造力の必要性

高校生の78%が、コロナ後の社会において創造力は「これまでより必要になると思う」と回答しました。特に、自分を創造的だと思っていない層でさえ73%が「これまでより必要になると思う」と回答しています。

必要になると思う理由として、「コロナへの対応に必要」という意見と、「コロナによって社会が変わろうとしているから」という意見が多く見られます。

コロナ後の社会における創造力の必要性



- これまでより必要になると思う
- これまでより必要ではなくなると思う
- これまでと変わらないと思う

アドビ株式会社マーケティング本部バイスプレジデントの秋田夏実は、次のように述べています。

「今回の調査で、高校生にとっての創造力が単に技法や表現の上手下手ではなく、『自分らしい個性を自由に表現すること』であることがわかりました。そしてその創造力の成長を阻害する可能性のある時期や要因がわかったことはとても興味深い発見でした。アドビは、「Creativity for All：すべての人に『つくる力』を」のミッションのもと、高校生を始め、日本の子供たちの創造力を伸ばし、また自分の創造力に自信が持てるようにサポートしてまいりたいと思います。」

■ 「アドビ」について

アドビは、世界を変えるデジタル体験を提供します。

アドビ株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、web サイト

(<https://www.adobe.com/jp/>)に掲載されています。

© 2020 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.